

# 姫路市の都市イメージに関する来街者の意識調査分析

井上博司

社会システム環境学大講座

## An Analysis on the Image of Visitors to Himeji City

Hiroshi INOUE

The chair of social systems environment

School of Human Science and Environment,

University of Hyogo,

1-1-12 Shinzaike-honcho, Himeji, 670-0092, Japan

### Abstract

In this paper, the image of visitors to Himeji City is analyzed based on the attitude survey. As Himeji City is very popular for its world heritage Himeji Castle, many people including foreigners visit this city. But most of them come to see only Himeji Castle, and they do not stay in the city. Then, the central commercial area of the city is lacking life. What is the problem and what is lacking on the town planning? To answer this question, the attitude survey for visitors to the city is analyzed statistically. In conclusion, it is made clear that visitors want convenient and functional urban facilities, such as shopping mall, cafe and bikeway, in addition to the historical landscape around Himeji castle.

Key words: city image, city planning, historical landscape, attitude survey, Himeji City

### 1. はじめに

姫路市は世界文化遺産である姫路城をはじめ、好古園や書写山圓教寺など多様な観光資源を持っている。また、兵庫県西部地域での中心的商業都市としての機能もあり、賑わいを見せている。しかし、観光地としての姫路市はリピーターが少ない、姫路城以外にどこにも行かないなどの問題に直面している。また、商業都市としての姫路市については、ショッピング機能が脆弱である、遊ぶところが少ないといった問題が起こっている。これらの問題を踏まえ、これから先姫路市をどのような都市にしていくかを考えるために、姫路の都市イメージに関する来街者の意識調査を行い、この結果を分析して、姫路市の都市整備のあるべき姿を考察した。

### 2. 都市イメージに関するアンケート調査

平成18年10月28日～11月6日の間、JR姫路駅と姫路城を結ぶ大手前通りおよび姫路城前を中心とする都市中

心部の街頭において、聞き取りアンケート方式により、来街者に対するアンケート調査を実施した。調査時間は来街者の多い午後の時間帯を選んだ。主な調査地点は次のとおりである。

1. 姫路市観光ナビポート前（大手前通り）、2. 大手前公園前、3. 家老屋敷公園前、4. 姫路城城門前、5. みゆき通り（商店街）

調査期間中は、秋の観光シーズンに当たり、姫路城菊花展、姫路城秋の特別公開、全国陶器市など、姫路城周辺で多くのイベント・催しものが開催されており、来街者の多い時期であった。調査方法は、年齢、性別、住所、を問わず、来街者をランダムに選択してアンケートを実施した。ただし回答が得られたのはそれらの一部である。アンケート票は日本人用と外国人用（英語）の二種類を用意した。回答数は日本人463、外国人35、計498である。

アンケート項目は次の通りである。

- ◆ 性別、年齢、住所、同伴人数

- ◆ 主な来街目的
- ◆ 市内での主な交通手段
- ◆ 姫路の良いところ
- ◆ 姫路の悪いところ
- ◆ 姫路に求めるもの
- ◆ 姫路に対する満足度
- <観光目的来街者の場合>
- ◆ 宿泊場所
- ◆ 再来街意識
- ◆ 姫路市に求めるもの
- ◆ 来街前のイメージ、来街後のイメージ
- <観光以外の目的の来街者の場合>
- ◆ 訪れた観光場所
- ◆ 観光地としての魅力
- ◆ 現在の姫路のイメージ
- ◆ 将来の姫路のイメージ
- <外国人回答者の場合>
- ◆ 性別、年齢、国籍、同伴人数、旅行目的
- ◆ 旅の形態
- ◆ 案内標識の分かりやすさ
- ◆ トイレの場所の分かりやすさ
- ◆ 宿泊場所
- ◆ 姫路市観光に対する満足度
- ◆ みやげを買ったか
- ◆ 訪れた観光場所
- ◆ 再来街意識

### 3. アンケート調査の分析

#### 3. 1 回答者の属性

調査期間は10月28日から11月6日までの9日間で、平日、休日にわたり均等に回答が得られた。全回答数は498で、1日当たり45~60程度の回答が得られた。11月3日は祝日で、また陶器市が大手前公園で催されていたこともあり、一番多くの回答があった。

回答者の男女比は、男性40%、女性58%と、やや女性の方が多。これは女性の来街者が多かったこと、女性の方がアンケートにより協力的であったことなどによるものである。

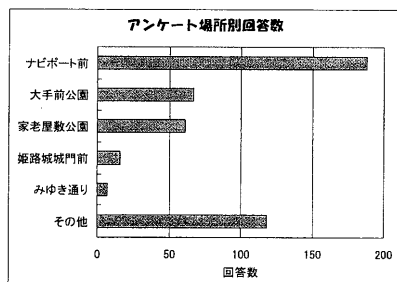


図. 1 アンケート場所別回答数

アンケートの場所別回答数については、姫路市観光ナビポート前は多くの観光客でにぎわっており、全体の42%と一番多かった。陶器市、キャッスルウォークなどのイベントのあった大手前公園や家老屋敷公園前もそれぞれ14%位である。みゆき通りや姫路城城門前での回答数はやや少なかったが、これは観光スポットやショッピングゾーンでは、アンケートに回答してくれる人が少なかったことによる。

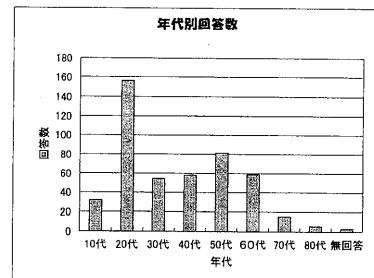


図. 2 年代別アンケート回答数

回答者の年代構成では、20代が156人と最も多く、次いで50代、60代、40代、30代、10代、70代、80代の順となっている。この年代構成は、必ずしも実際の来街者の比率と一致するものではなく、単にアンケートに回答した来街者の比率である。両者の間には若干の乖離があるものと思われる。

回答者の住所は姫路市内が48% (224人)、市外が51% (233人) でほぼ同数の回答を得ることができた。期間中、陶器市、菊花展など多くのイベントがあり、市内のみならず市外からも多くの来街者があったものと考えられる。市外からの来街者の内では、神戸市からの来街者が41人と一番多く、次いで加古川市から25人、明石市から13人とJR神戸線沿線からの来街者が多いという結果であった。姫路市以西の都市からの来街者は少なかった。

回答者の同伴人数 (回答者を含む) では、最も多いのが2人で、次いで1人が続く。1人で散歩がてらに姫路城や周辺の公園を訪れる人、みゆき通りなどでの買物客が多く見られた。休日は家族連れの人達もよく見かけるが、夫婦、友人など2人で散策する人が多かったようである。少数人数でゆっくり姫路を散策したいという意向が感じられる。

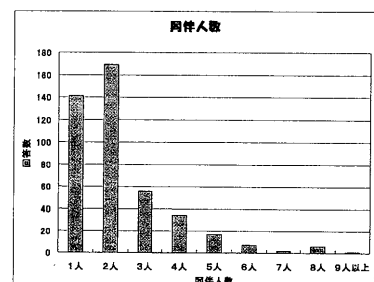


図. 3 同伴人数の分布

来街目的については、観光が最も多く、全体の2割程度である。ついで娯楽、通学、買物、業務と続く。食事目的での来街が意外と少なかったのは、アンケートの時間や場所の影響が考えられる。その他では、イベント参加、ウォーキング、散歩、喫茶、集会、ボランティアなどであった。

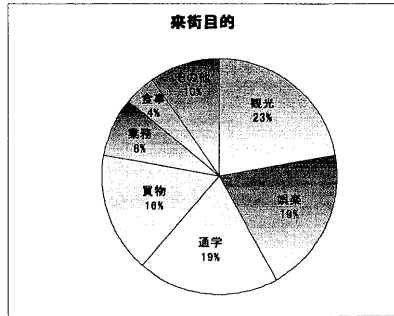


図. 4 来街目的の割合

市内の交通手段については、自動車が最も多く、次いで徒歩、自転車、バス、バイクの順となっている。調査箇所の多くがJR姫路駅と姫路城の間ということで、JR姫路駅から徒歩で観光・娯楽・買物等の用を足している人が多く、また近隣から自転車で来街した人も多かったものと思われる。バスの利用者は徒歩の1/3程度に留まっている。自動車利用が多いのは、近隣の都市から家族・友人達と自動車で姫路城観光や、姫路城周辺でのイベント参加に来た人が多かったためであると思われる。

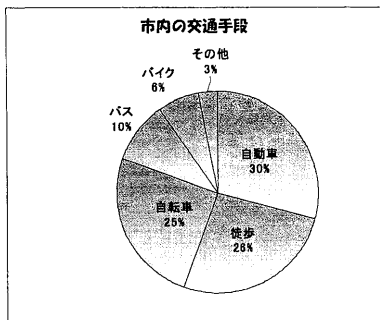


図. 5 市内の交通手段の割合

### 3. 2 来街による都市イメージの変化

来街者が来街前に姫路という都市に対して抱いていたイメージと、来街後に感じたイメージを比較し、来街による都市イメージの変化を明らかにする。図. 6 および図. 7 は、観光目的来街者の来街前と来街後の姫路に対して抱くイメージの変化を示している。来街前は「姫路城」と「歴史的（城下町）」のイメージが強い。観光目的来街者の多くは、世界文化遺産姫路城と城周辺の歴史的雰囲気を期待して来街していることが伺える。

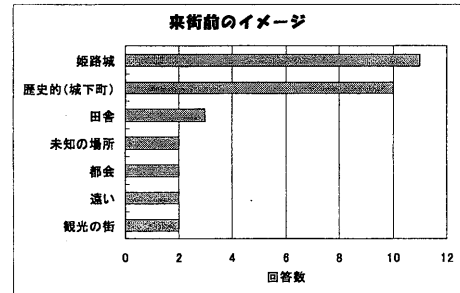


図. 6 観光目的来街者の来街前のイメージ

来街後は歴史的雰囲気よりも街並や街路の美しさが評価されている。「日本の道百選」に選ばれた大手前通りや新しく整備された家老屋敷公園などを中心とした町並みの美しさが印象に残っているものと考えられる。また姫路は田舎だと思っていたが、来街して意外と都会だったという印象を持った人もいたようである。

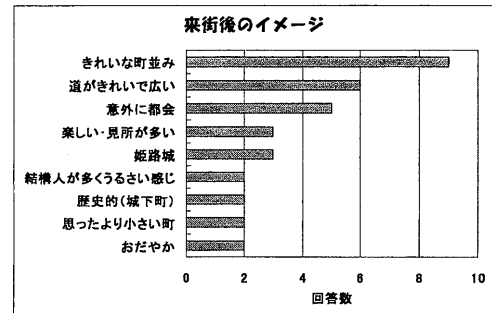


図. 7 観光目的来街者の来街後のイメージ

来街前後を比較すると、来街前に上位であった「姫路城」と「歴史的（城下町）」が来街後には下位に移動している。このことは来街前は姫路城の城下町というイメージしか持っていなかったものが、来街によって姫路城はもちろんのこと、主要街路や沿道建築物、街並の美しさを含むより街の総合的な都市イメージに変化していることがうかがえる。これらのことより、駅前から姫路城に延びる主要街路の景観が来街者の都市イメージの形成に大きく作用しているものと考えられる。

### 3. 3 姫路の良い点・悪い点

図. 8 aは、姫路市民が抱く姫路の良い点を、図. 8 bは、姫路市民を除く来街者が抱く姫路の良い点を主要な項目についてまとめたものである。来街者の多くは、「世界文化遺産がある」ことを姫路の良い点として挙げており、次いで、「祭り・イベントが豊富」、「歴史的」、「道がきれい、歩きやすい」、「観光スポットが豊富」などとなっている。姫路市民は「祭り・イベントが豊富」を第2位に挙げているのに対し、市民を除く来街者は「道がきれい、歩きやすい」を第2位に挙げている。

姫路市民は1年を通じた観光資源の豊富さを評価しているのに対し、市民を除く来街者は来街時に印象が強かった姫路城周辺の街路の整備水準の高さを評価したものと考えられる。その他では、「自然が豊か」、「交通の便がいい」など、居住環境の高さが評価されている。また、「街並がきれい」、「風情がある」など、観光都市によく見られるけばけばしさのない落ち着いた街並の風情が評価されている。

図. 9 aは、姫路市民が抱く姫路の悪い点を、図. 9 bは、姫路市民を除く来街者が抱く姫路の悪い点を主要な項目についてまとめたものである。悪い点としては、共に「鳥害」が1位に挙げられており、姫路駅と姫路城を結ぶ大手前通りでの鳥糞等の衛生上の問題が来街者に嫌悪感を与えていることが伺える。その他、「買物する場所が少ない」、「食事処が少ない」、「道が汚い、歩きにくい」などが上位に挙げられている。良い点で「道がきれい、歩きやすい」と道路が評価されていたのと相反する結果となっているが、姫路駅と姫路城周辺の美しく整備された街路が良い点として評価されたと同時に、それ以外の生活道路での道幅の狭さや歩道の少なさなど、一般的な道路の整備水準の低さが悪い点として挙げられたものと考えられる。その他では、「遊び場所が少ない」、「川が汚い」、「街灯が暗い」、「クルマが多い」、「ゴミ箱がない」、「段差が多い」、「駐車場が少ない」など、居住環境の面での整備水準が十分ではないと考えている住民が多いことが伺える。

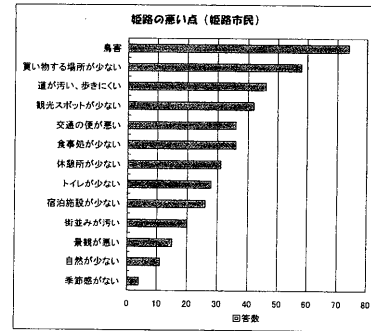


図. 9 a 姫路の悪い点(姫路市民)

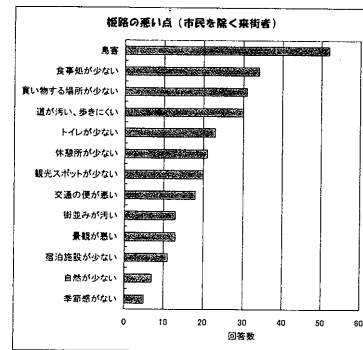


図. 9 b 姫路の悪い点 (市民を除く来街者)

### 3. 4 姫路に必要なもの

姫路市の都市環境を改善するために必要なものとして、「歴史的街並み」を要望する人が多い。姫路市は城下町というイメージが強いにも関わらず、姫路城以外に歴史的な雰囲気を感じられる場所が少ないと感じている市民・来街者が多いことを裏付けている。また、「ショッピングモール」や「カフェ」が上位に上がっていることから、街中で滞留できる場所が少ないと感じている来街者も多いものと考えられる。その他の意見では、「自転車専用道路」や「路面電車」、「幅の広い歩道」などを要望する人が多い。公共交通や歩行者、自転車に配慮した人に優しい道づくりが求められている。

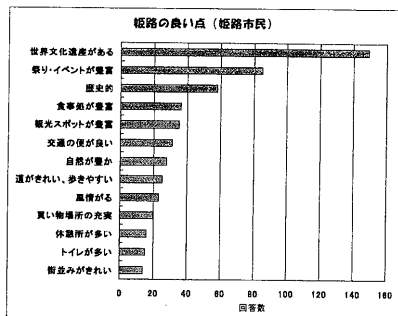


図. 8 a 姫路の良い点 (姫路市民)

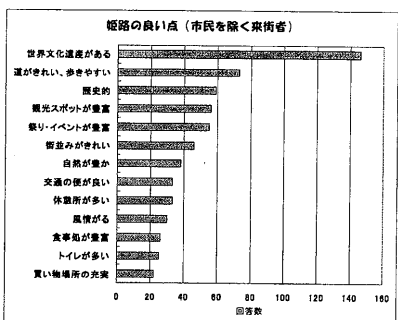


図. 8 b 姫路の良い点 (市民を除く来街者)

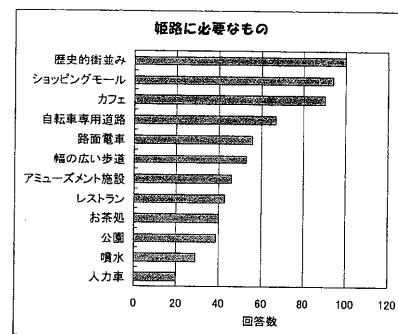


図. 10 姫路に必要なもの

観光目的来街者に対する宿泊場所についての質問では、姫路に宿泊するという人は全体の13%であった。その倍

以上の人が姫路以外の近隣都市で宿泊していた。全体では日帰りが40%程度と最も多かった。その理由として、姫路は京阪神圏から十分に日帰りできる場所であることや、京都や神戸など、他の魅力的な観光地へ行く際の通過点として捉えられていることが考えられる。

「再来街したいか」という質問に対して、「再来街したい」と答えた人が全体の8割と多い。理由としては、「姫路の町や城をもっとゆっくりと見たい」という意見が多く、また「気軽に来ることができる」という意見も多かった。京阪神圏から日帰りで来られる手軽な観光地と見なされているようである。リピーターに対して、毎回新しい魅力を提供できるような魅力溢れる街にしていくことが必要といえる。

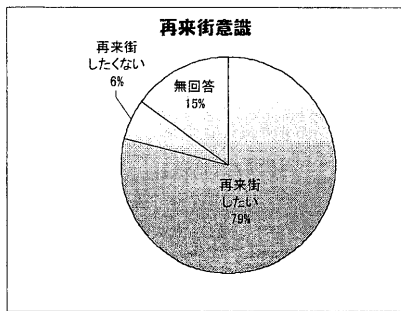


図. 11 再来街意識の割合

### 3. 5 観光地としての魅力について

姫路市が観光地として魅力があるか否かを問う質問では、「魅力がある」と答えた人が62%、「魅力がない」と答えた人が25%であった。半数以上の人々が姫路市に魅力を感じていることがわかる。その理由としては、「姫路城があるから」というのがほとんどで、姫路城だけを目的として観光に来る人が大部分であることを意味している。街の景観や雰囲気も挙げた人は少ない。

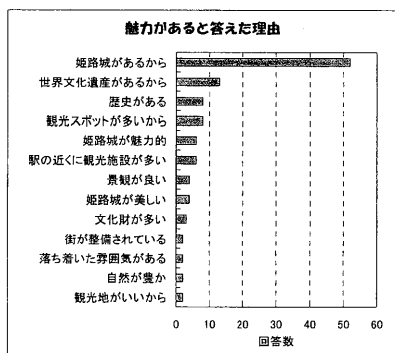


図. 12 魅力があると答えた理由

一方、魅力がないと答えた人の理由では、「観光スポットが少ない」、「姫路城だけに頼り過ぎている」という回答が多い。良くも悪くも、現在の姫路市は姫路城だけでも街であることがいえる。祭りやイベントなどの魅力

ある取り組みをどのように宣伝しその魅力を伝えていくか、さらに姫路城以外の都市的魅力をどのように形成していくかが課題であると考えられる。

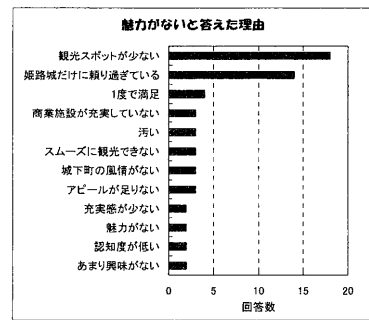


図. 13 魅力がないと答えた理由

### 3. 6 形容詞で表される姫路のイメージ

姫路市の印象を形容詞または形容詞に類する言葉で表現すると、どのような言葉で表現できるかという質問をした。意外にも、「親しみがわく」と答えた人が最も多かった。これは姫路は一級の観光都市ではあるが、京都市のようなお高くとまったところのある街ではなく、庶民的な街として捉えられているものと考えられる。「親しみがわく」に次いで「国際的な」と答えた人が多い。世界遺産姫路城を見に来る外国人も多く、道路標識や観光案内などユニバーサルデザインで外国人にもわかりやすいように配慮されていることが影響しているものと考えられる。「活気のない」というマイナスイメージが上位にあるが、これはみゆき通りを中心とする商業地域の活気のなさが原因ではないかと考えられる。閉店した店舗のシャッターが目立つことや、何年間も同じ商品配置で新鮮さに乏しい店舗が多く見られることが影響しているものと思われる。商店街の活気は街のイメージに大きく影響するので、歩いているだけでも楽しくなるようなショッピングゾーンを形成していくことが重要である。欧米の街でみられるようなカフェテラスや、植栽、水の流れ、ストリートファニチャー、ショーウィンドウなどの工夫が重要である。モール化やトランジットモール化も検討に値する。

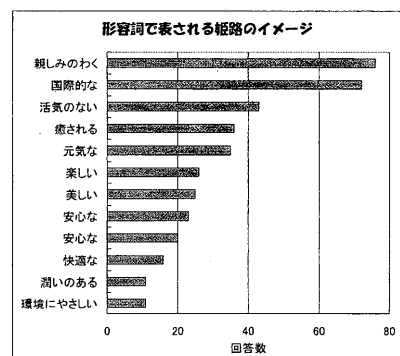


図. 14 形容詞で表される姫路のイメージ

### 3. 7 外国人から見た姫路のイメージ

調査期間中、外国人35名にアンケートすることができた。国別では、オーストラリアが一番で、次いでイギリス、フランス、カナダとなっている。これは英語による質問に回答が得られた外国人の割合であり、東洋系外国人からは英語による質問に回答が得られなかった。なお、回答者のほとんどは、姫路城観光を済ませた人達である。

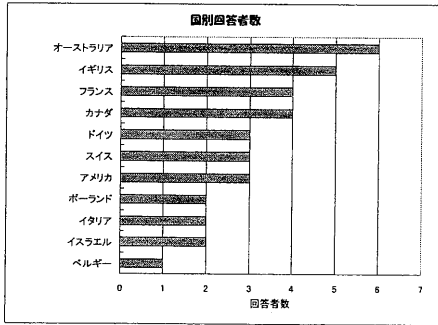


図. 15 国別回答者数

外国人の来街目的は、全体の83%が観光目的であり、ビジネスが目的での来街は6%と少ない。旅行の形態では、ほとんどがパーソナルで、ツアーで来た人は1名だけであった。日本人の外国旅行では、圧倒的にツアーが多いが、これは外国語に弱い日本人特有の旅行形態であることを裏付けている。

案内標識に対する評価を訊いた質問では、「難しい」と答えた外国人はおらず、全体的に「易しい」と感じた外国人が多いようである。英語、ハングル語などの外国語標記や簡単なイラスト入りの標識などのユニバーサルデザインが評価されたものと考えられる。

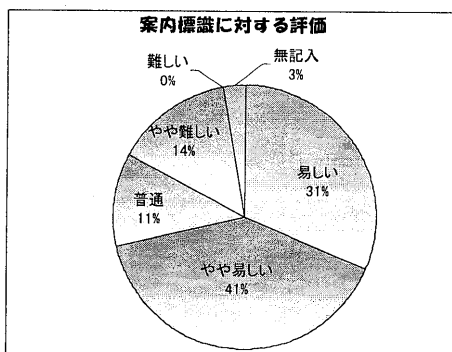


図. 16 案内標識に対する評価

トイレの場所の分かりやすさを訊く質問では、半数以上の方が「分かりやすい」と回答している。「わかりにくい」と答えた人はいなかった。これは姫路だけではなく、日本の観光地では欧米に較べて公衆トイレが多く、またほとんどが無料であり、外国人にもやさしい対応となっていることが評価されているものと考えられる。た

だ分かりやすいということだけではなく、トイレの清潔さも重要であることはいうまでもない。

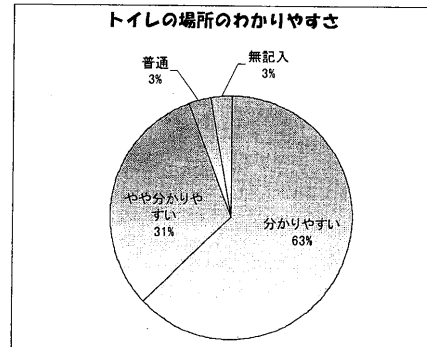


図. 17 トイレの場所の分かりやすさ

姫路に宿泊するか否かを訊いた質問では、姫路に宿泊すると答えた外国人は全体の14%に留まっている。その理由として、外国人対応の宿泊施設が整っていないことや、京阪神圏を拠点として日帰りで来街する、または岡山・広島など中四国方面への旅の途中で立ち寄った外国人が多いことが考えられる。

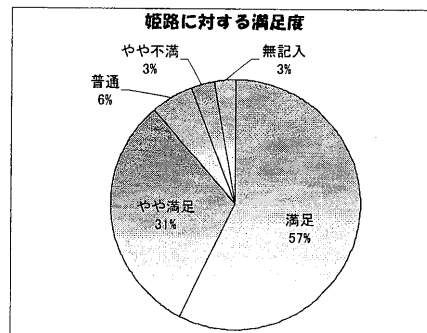


図. 18 外国人の姫路に対する満足度

姫路に対する満足度を訊いた質問では、「満足」と答えた人が57%と一番多く、次いで「やや満足」と答えた人が31%であった。「不満」、「やや不満」と答えた人はほとんどいなかった。世界文化遺産姫路城という世界に誇れる一級の観光資源に満足した外国人がほとんどで、また外国語での地図の提供など、外国人対応のサービスがなされていることが評価されているものと考えられる。

みやげを買ったかどうかを問う質問に対しては、26%が「買った」と回答し、71%が「買ってない」と回答した。みやげものとしては、ポストカード、ゆかた、ネクタイピン、クラフトなどが挙げられている。旅行の際にみやげを買う日本人は多いが、これはお伊勢さん参りや金比羅山参りなどに起源をもつ日本人独特の文化と考えられる。一般に西欧の人達は、陶器やガラス製品などその土地固有の優れた土産を旅先で買うということはあるが、単に旅行の記念として安っぽい物を買う人

は少ない。外国人に誇れるような本物志向の物産を開発していくことが必要である。

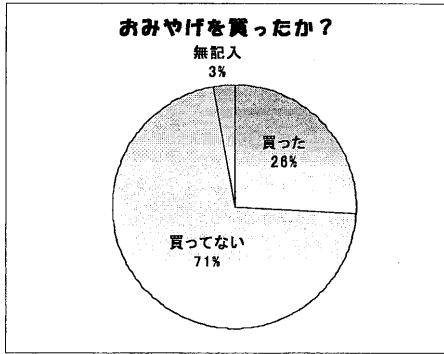


図. 19 みやげを買ったかどうか

姫路に対する再来街意識を訊いた質問では、「また来たい」、「やや来たい」と回答した人は全体の43%であった。一方、「来たくない」と答えた人も11%いた。半数近くの人が「どちらでもない」と回答しており、姫路城は確かに立派だけれども、他に見るべきものが少ないというのが、多くの外国人観光客の意識のようである。外国人が「また来たい」と考えるような文化的・芸術的香りの漂う個性的な街づくり、宿泊や飲食などの面で、十分に外国人を満足させられるような魅力溢れる観光地整備をどのように進めるかが重要な課題である。

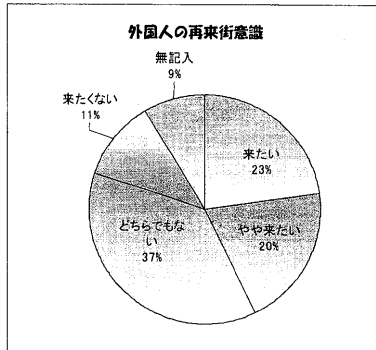


図. 20 外国人の再来街意識

### 3. 8. クロス集計分析

回答者の属性によるクロス集計分析の結果をいくつか挙げる。図. 21a、図. 21b、図. 21c、は回答者の年齢層による姫路に求めるものの相違を示している。若者層(10~20代)では、「ショッピングモール」や「カフェ」、「アミューズメント施設」など、日常的な買物・飲食・娯楽において、都会的な賑やかさや楽しさのある都市施設の充実が求められていることが分かる。一方、中年層(30~50代)、では、「カフェ」や「ショッピングモール」とともに、「歴史的街並み」、「自転車専用道路」、「路面電車」、「幅の広い歩道」など、日常の生活において便利で安全・快適、かつ豊かさを感じることのできる

施設の充実が求められている。高齢層(60代以上)では、「歴史的街並み」を挙げる人が多く、うるおい・やすらぎのある落ち着いた都市空間が求められていることが伺える。

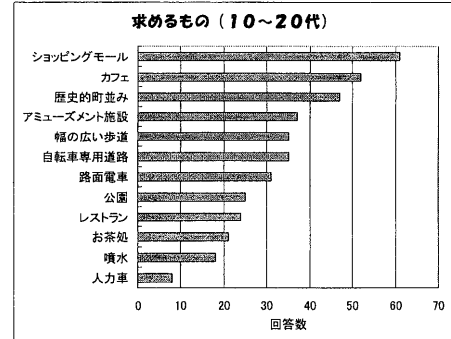


図. 21a 若者層の求めるもの

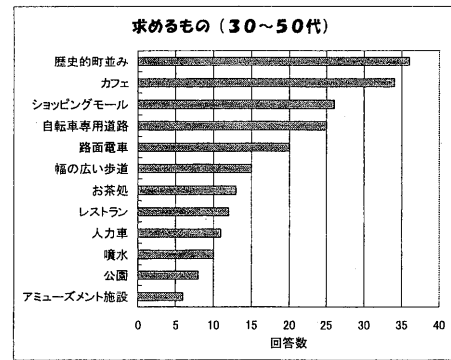


図. 21b 中年層の求めるもの

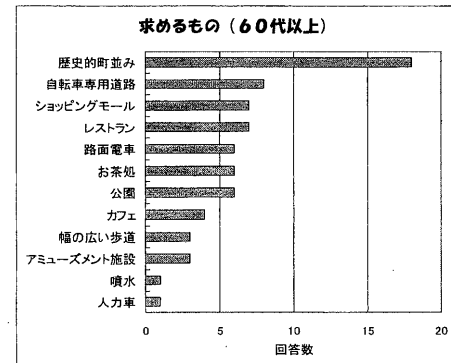


図. 21c 高齢層の求めるもの

図. 22a、図. 22bは回答者の性別による、姫路に求めるものの相違を示している。男性では、「歴史的街並み」、「カフェ」、「ショッピングモール」、「アミューズメント施設」の順となっており、一方女性では、「ショッピングモール」、「歴史的街並み」、「カフェ」、「レストラン」の順となっている。男女とも、「ショッピングモール」や「カフェ」といった日常生活で利便性の高い都会的な施設が求められているが、男性ではより娯楽性の高いものを、女性ではよりファッション性の強いものが求

められていることが伺える。交通施設の面では、男性では「自転車専用道路」、「路面電車」、「幅の広い歩道」がほぼ同じ位の割合で求められているのに対し、女性では「自転車専用道路」を求める人が多い。男性が快適・迅速な交通を求めているのに対し、女性は買い物などの日常的生活に便利で安全な交通を求めていることがわかる。

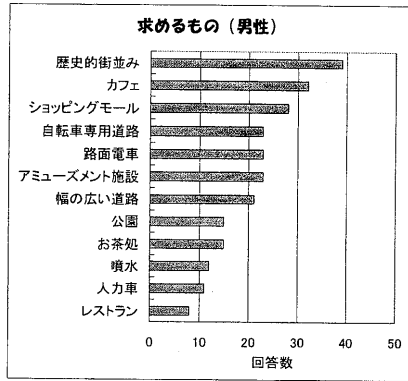


図. 22a 男性の求めるもの

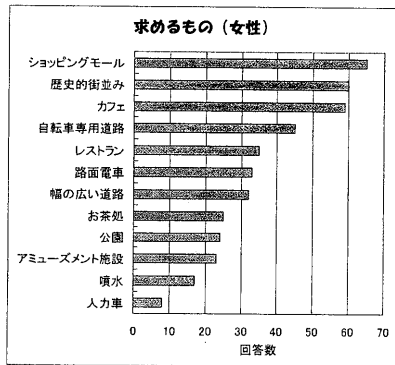


図. 22b 女性の求めるもの

図. 23a、図. 23bは回答者の住所（姫路市内・市外）による姫路に求めるものの相違を示している。市内在住者では、「ショッピングモール」、「歴史的街並み」、「カフェ」、「自転車専用道路」、「幅の広い歩道」の順となっている。一方市外からの来街者では、「歴史的街並み」、「カフェ」、「ショッピングモール」、「路面電車」、「自転車専用道路」の順となっている。「ショッピングモール」や「カフェ」は市内・市外来街者とも求められている。「歴史的街並み」は、市内・市外来街者とも求められているが、市外来街者の方により多く求められている。日常生活で便利な「自転車専用道路」は市内在住者で多く求められており、観光に便利な「路面電車」は市外からの来街者に多く求められている。市内在住者は実生活においてより便利で豊かなものを、市外からの来街者は観光面でより便利なもの、安らぎのあるものを求めていることが伺える。

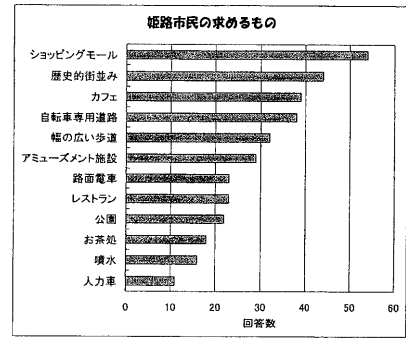


図. 23a 市内在住者の求めるもの

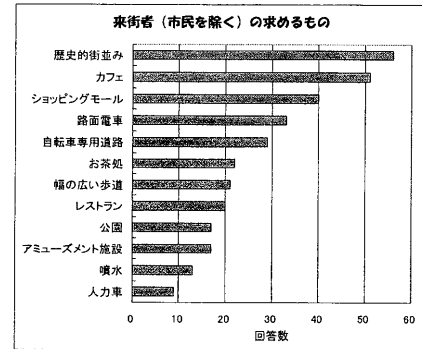


図. 23b 市外からの来街者の求めるもの

#### 4. おわりに

姫路市を今後どのような都市にしていけばよいかについて、姫路市来街者を対象とする意識調査により分析を行った。調査対象者には、姫路市民および姫路市外からの来街者を含んでいる。調査結果を分析した結果、来街者の姫路市に対するイメージは、世界文化遺産姫路城の城下町というイメージが、来街によって都会的な街並みの美しさを含むより総合的な都市イメージに変化していることが分かった。しかし美しく整備された街並みは、JR姫路駅と姫路城を結ぶ主要幹線街路および姫路城周辺に限られ、その他の生活道路での整備水準の低さとの間に明らかな落差があると感じている人が多いことが分かった。また観光資源が姫路城に限られ、姫路城は確かに立派だけれども、他に見るべきものが少ないと感じている来街者が多いことも分かった。ショッピングモールやレストラン、カフェといった来街者が都心に滞留できる場所が少なく、観光客の多くは姫路城のみを観光して都心に留まらないという問題が明確になった。さらに、姫路市民は便利で快適・安全なより生活に密着した都市整備を望んでいるのに対し、市外からの来街者は、姫路城を活かした観光に便利で落ち着いた街並整備を望んでいることが分かった。

今後の街づくりの課題として、来街者を都心に滞留できる姫路城以外の都市的な魅力をどのように形成するか



ということと、世界文化遺産姫路城のイメージをより高めるような落ち着いた街並み整備をどのように進めるかという、一見相反する課題を両立させることが必要であることが挙げられる。また、姫路市民を対象とした快適・便利で豊かさを感じることでできる生活環境に重点を置いた都市整備と、市外からの来街者を対象とした魅力的な観光地づくりの両方をバランスよく達成することも重要な課題である。

最後に、本研究を行うに際し、兵庫県立大学環境人間学部環境都市デザイン研究室（井上ゼミ）のゼミ生にはアンケート調査や分析に協力をいただいた。ここに記して謝意を表する次第である。

#### 参考文献

- 1) 兵庫県立大学環境人間学部環境都市デザイン研究室：「姫路市観光動向アンケート調査報告書」、平成19年1月

(平成19年9月28日受付)